

平成28年度

事業計画書



学校法人 岩手医科大学

## 目 次

1. 背景と方針について	・ ・ ・ ・	1
2. 主要な事業計画について		
(1) 創立 120 周年記念事業関係	・ ・ ・ ・	2
(2) 教育・研究関係	・ ・ ・ ・	3
(3) 補助事業及び委託事業関係	・ ・ ・ ・	6
(4) 医療関係	・ ・ ・ ・	8
(5) 管理運営関係	・ ・ ・ ・	10
(6) 施設設備関係	・ ・ ・ ・	10

## 1. 背景と方針について

本学は、創立者三田俊次郎が岩手県の医療の貧困を憂い、明治 30 (1897) 年に私財を投じて設立した私立岩手病院に併設された医学講習所が起源であり、以来「岩手医学校」「岩手医学専門学校」「岩手医科大学」と姿を変え、百十有余年一貫して医療人の育成を続けてきた歴史ある大学である。この間、昭和 40 (1965) 年には北東北・北海道初の歯学部、平成 19 (2007) 年には薬学部を開設し、医療系総合大学の礎を築いてきた。

平成 29 (2017) 年には創立 120 年の節目を迎えることから、創立者の掲げた厚生済民の原点に改めて回帰しつつ、新時代を担う誠の総合医療の実現と地方にあって世界に発信する大学への飛躍を目指す記念事業を実施することとした。第一段階として、平成 28 年度には、矢巾キャンパス新病院の平成 31 年度開設に向け、病院本体の建設工事を本格的に開始するほか、学校法人岩手女子奨学会から岩手看護短期大学の経営移管を受け、看護師の養成を開始する。平成 29 年度には、同短期大学を母体とした 4 年制看護学部を開設する予定であり、これにより医・歯・薬・看護の 4 学部の学生が同一キャンパスで学び、現代の医療の潮流とされるチーム医療の素地を涵養できる真の医療系総合大学として生まれ変わることになり、本学の更なる飛躍、発展が期待されることとなる。

創立 120 周年記念事業の推進のためには、大学ガバナンス体制を一層強化し、教職員が一体となって事業に取り組むことはもとより、学生、卒業生、父兄、関係者、地域の方々の理解と協力が得られなければならない。したがって、これまで培ってきた信頼の歴史を改めて掘り起こすとともに、現在保有する知の力、医の力を積極的にアピールし、将来に向かって本学への支援拡大に努めるものとする。

一方、私立大学を取り巻く環境は、「2018 年問題」と呼ばれる 18 歳人口の減少に伴う大学進学者の減少により、優秀な学生の確保が大きな課題となってくるが、本学としては、これまでの歴史に裏打ちされた実績と伝統を継承しつつ、社会の変化や需要、学生の資質に的確に対応し、本学の形態にふさわしい新たな特色と魅力の創出に向けた改革に取り組んで行くこととする。

また、当面の最優先事業である附属病院の移転整備においては、物価上昇や消費税増税、オリンピック関連事業に伴う建築費の高騰等も重なり、資金の確保は容易なものではない。帰属収入の 6 割以上を占める医療収入の積極的な増収策を推進する一方で、徹底した医療経費の節減に努めるとともに、各種補助金等、外部資金の積極的な獲得に努めつつ、借入金等、長期的な資金計画の検討を行いながら、使命とする教育・研究・医療を通じた社会貢献の永続的な遂行に向けて、財政基盤の強化を図ることとする。

以上の方針に基づき、平成 28 年度は次の重点事業を実施する。

## 2. 主要な事業計画について

### (1) 創立 120 周年記念事業関係

#### ①矢巾新病院建設に向けた附属病院移転事業の推進

矢巾新病院本体工事の着手に向け、実施設計及び確認申請等の各種手続きに係る業務を推進する。また、全体事業費の圧縮に向け、引き続き事業内容及び資金計画の精査を行うとともに、更なる事業資金の確保等についても学内外各機関との協議に努めていく。

#### ②内丸地区附属病院跡地活用に係る協議推進

将来的な内丸地区病院跡地の活用計画について、岩手県、盛岡市、盛岡商工会議所との協議を継続するとともに、外部の有識者の方々からの意見も広く聞き入れながら、より良い方向性に向けた協議を行っていく。

#### ③矢巾キャンパス緑化事業の推進

平成 20 年度から実施している矢巾キャンパスの緑化計画について、平成 28 年度も継続して事業を推進し、木々の成長とともに今後の矢巾キャンパスの発展を見守る魅力あるキャンパスづくりを進める。

#### ④創立 120 周年記念事業に係る総務広報・募金・史料整備

来たる平成 29 年 4 月 20 日に向け、今一度、創立者が志した「厚生済民」の理想に立ち返るとともに、本学が保有する知の力、医の力を積極的に発信し、大学ブランドの強化と支援者の拡大及び寄付者に対する顕彰の充実に努める。また、史料整備については、平成 29 年 4 月の刊行を目標とし、収集した関連資料や取材内容に基づき、記念出版物の編纂作業を進める。

#### ⑤看護学部を設置準備

平成 29 年 4 月の看護学部開設に向けた各種規程の制定・改正、矢巾キャンパスへの講義室・実習室・研究室等の教育研究環境整備等、学生及び専任教員の受入れに係る準備を行うとともに、入学試験センターと連携して受験生確保のための積極的な入試広報活動を展開する。

## (2) 教育・研究関係

### ① 医師国家試験・歯科医師国家試験・薬剤師国家試験の合格率向上対策

#### i 医学部

JACME（日本医学教育認証評議会）による分野別認証評価受審にむけて教育内容の一層の充実を図り、それと並行して、CBT（共用試験実施評価機構による試験）や医師国家試験の合格率向上を目指した取り組みを実施する。第2学年からコアカリキュラムに準じた本学教員による CBT 対策演習の実施、第3、第4学年にわたり CBT 模擬試験を実施することで、CBT 受験の早期化にも対応する。医師国家試験対策では、国家試験出題基準に準じた本学教員による領域別講義、予備校による講義や模擬試験を実施し、国家試験本番を見据えた卒業試験で医学知識修得の確認をする。また、教員による学生への個別指導体制として、低学年へのゼミ、ラボ配属、高学年への担任制とチューター制度を継続して行う。

#### ii 歯学部

歯学部改革プロジェクトに伴い導入された Society 制度(学年をまたいだ屋根瓦方式の少人数学修グループ)、チューター制度、ディレクター（科目責任者）制度の下、学生自習室を活用し、担当チューターによる学生個人カルテに基づいたきめ細やかな学習方法等の指導を引き続き実践する。

また、国家試験ならびに全国公開模擬試験の結果分析を詳細に行い、全国水準を念頭に置いた特別補講の実施、学生個々の弱点克服を目的とした科目毎の補習講義の実施、国家試験予備校の講師招聘によるオーダー講義を戦略的に行うほか、歯科医療センター先進総合歯科外来における診療参加型臨床実習の充実を図り、学生により多くの臨床例を自験させることで歯科医師国家試験の合格率向上を目指す。

なお、第2、3、4、5学年には、授業時間外での自学自習システム「歯学教育支援システムモバイル版」を活用した DESS（歯学教育支援システム）演習を導入し、早期 CBT、国家試験対策を展開していく。

#### iii 薬学部

薬学部では、学部を挙げてマンツーマンのきめ細かい指導を行っており、通常の講義に加えて多くの補習や模擬試験も実施し、出題領域全てに対応できる力をつけるようトレーニングを続けてきた。しかしながら、第100回薬剤師国家試験は第99回と同様に高難易度となり、全国的にも合格率は伸び悩む結果となった。

平成28年度は、6年制薬学部に求められている問題解決能力や臨床能力をさらに向上させるべく、国家試験対策委員会を中心に薬剤師国家試験問題の分析・対策をさらに進めていく。学生に対しては薬学部教員による徹底した個別指導はもちろんのこと、全国規模の模擬試験・国家試験対策講習会へ積極的に参加させていく。

## ②歯学部 Study Abroad Program

歯学部改革プロジェクトの一環として、将来世界で活躍できるグローバル化に対応できる国際的視野を持つ学生、大学院生及び若手・中堅教員の育成、他大学との差別化を図り、魅力ある、競争力のある大学を目指し、歯学部 Study Abroad Program（海外研修プログラム）を推進する。対象は第1学年から第5学年の学部学生、臨床研修歯科医師、大学院生、若手教員とし、ハーバード大学での研修を実施するとともに、ハーバード大学学生の受入れも行う。本プログラムを推進することで、教員の質的向上、大学に残る教員、大学院生の増加、さらに、質の高い入学者の獲得が期待できる。入試パンフレットへの掲載、合格者へのパンフレット送付、ホームページへの掲載等学内外での広報活動を充実し、さらなる入学者確保へと繋げる。

## ③医・歯・薬三学部の研究連携を推進

平成25年4月の大学院薬学研究科開設により、医学・歯学・薬学の医療系総合大学としてよりダイナミックな教育・研究環境を形成する準備が整った。各学部の機器を有効に活用し、研究の連携を推進していく。

## ④「ひらめき☆ときめきサイエンス」による小・中・高校生を対象にした薬学の啓発

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、日本学術振興会が主催する小学校5、6年生、中学生、高校生に向けたプログラムである。研究機関が行っている科研費による研究成果を小・中・高校生に体験してもらうことにより科学への関心を高めてもらうことを目的としており、本プログラムに応募・採択されることで補助金を受けられることができる。

薬学部では、本プログラムによる補助金を用いて、県内外の小・中・高校生を対象に講義・実習を実施し、薬学への関心を高めることで、潜在的な薬学部志願者の掘り起こしを図る。

## ⑤内定率向上と就職先業種拡大のための継続的な支援

企業研究セミナー、OB・OGとの懇談会等を定期的に行い、学生が人事採用担当者やOB・OGなどから効率的に情報を得る機会を提供する。更に、就職情報検索サイト「求人NAVI」を最大限に活用し、就職活動に必要な情報を過不足なくかつタイムリーに提供する。また、新卒応援ハローワークとの連携により、学卒ジョブサポーターによる学生への個別相談を通年で実施する。

## ⑥全学部における教員養成推進事業

教員養成を目的とし、全学においてFD（ファカルティディベロップメント：教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組）を充実させ、教員の質を一定に担保し、大学経営のマネジメントも修得する。詳細

内容としては、初級編及び上級編を実施する。初級編は助教（主に新規採用者）を対象とし、すべての大学教員に必須の知識や技術について実施する。上級編としては、講師以上を対象とし、講師以上の大学教員に必要とされるレベルのカリキュラムの作成・応用および分野別認証評価への対応について実施する。また、ファカルティデベロッパー養成講座に参加し、学内における教員養成スタッフの育成にも努める。

#### ⑦教学 IR(Institutional Research：学生情報一元化収集・解析) 充実化事業

学内に散在するさまざまな教学情報 (information) を集約して、データの一元化を図り、教育戦略に役立つように解析する。平成 26 年度、平成 27 年度実施の卒業生に対する入学時から卒業時までのデータ解析にとどまらず、在学中の学生に関するデータの解析・卒後に関するデータの収集・解析を促進する。

#### ⑧災害時地域医療支援教育センター事業

平成 23 年度に採択された文部科学省大学改革推進等補助金「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」は、平成 27 年度をもって補助事業が終了となることから、これまで当センターが取り組んできた東日本大震災津波時の問題点と情報の収集・検証、災害時対応医療人の育成、遠隔医療ネットワークの構築について、可能な限り経費の圧縮・節減に努めることとし、次のとおり進める。

- i 問題点と情報の収集・検証について、災害医学講座が更なる分析・検証を継続し、教育研究活動を行う。
- ii 災害時対応医療人の育成について、主要となる研修会のみ開催を継続する。
- iii 遠隔医療ネットワークについて、総合情報センターに業務を移管し、岩手県と協議・調整の上、事業を進める。

また、当センターの事業を進めるに当たり、各研修会での受講料徴収のほか、施設利用料の徴収、寄付金の募集など、少しでも大学負担を減らす運用体制を構築する。

#### ⑨医療専門学校の入学生の確保

歯科医院等では歯科技工士、歯科衛生士が慢性的に不足し、養成機関である本校への期待が大きい。その期待に応えるべく入学生の確保は必須であり、対策として学校見学会、体験入学を開催する。参加者には、仕事の魅力をアピールできるよう更にイベント内容を工夫していく。引き続き高校訪問、進学相談会を行い、広く受験生の掘り起こしを図る。また、ホームページを充実させながらインターネット及び各種メディアを最大限に活用し、歯科技工士、歯科衛生士に関する周知を行い、積極的に入学生を確保する。

### ⑩医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

歯科技工士、歯科衛生士養成機関として、国家資格の取得は最終目的であり、国家試験合格率は社会の学校評価の重要な指標である。歯科技工士国家試験は平成 27 年度から全国統一化で実施されたことにより、「教育モデルコアカリキュラム」によるカリキュラムの再編成と充実を図る。また、学説試験では「四肢択一式」が採用されたことにより、教員および学生が対応できるよう、国家試験問題システムの活用を図りながらその対策を講じる。学生には今後もきめ細かい国家試験対策の指導を継続し、高位合格率の維持を図る。

## (3) 補助事業及び委託事業関係

### ①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進

「異分野融合による脳と心の健康のための介入的ニューロイメージング研究拠点」（継続）

事業年度：平成 26 年度～平成 30 年度

### ②私立学校施設整備費補助金による透過型電子顕微鏡の整備

生命科学研究技術支援センターでは、長年、透過型電子顕微鏡 2 台体制で研究活動の支援を行ってきたが、矢巾キャンパスへの移転に伴い、老朽化した 1 台については移転費用等を考慮し廃棄処分したため、現在は平成 17 年度導入の機器 1 台のみで対応している。近年、利用者の増加（平成 25 年 190 人、平成 26 年 269 名）や、1 台での対応による弊害が生じている。具体的には、機器予約をなかなか取れない状況や、装置酷使による不具合が起っており、研究活動に支障をきたしている。生命科学研究技術支援センターに最新型の透過型電子顕微鏡を増設することで、従来機の混雑緩和、利用者の研究成果促進が可能となる。標記装置の導入により、研究活動の迅速なサポート、現有機器の負担軽減・長寿命化、最新アプリケーションへの対応が可能となることから、当該機器を整備する。

### ③オーダーメイド医療の実現プログラム

「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化」（継続）

事業年度：平成 25 年度～平成 29 年度

### ④がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

本事業は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的としている。本学は順天堂大学を主幹校として、島根大学、鳥取大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学と連携した「ICT と

人で繋ぐがん医療維新プラン」に参画して5年目を迎える。東北または山陰で構築されたコンソーシアムと理薬工学系大学を ICT と人材交流で繋ぐことにより、がん医療に携わる専門的な知識や技能を備えた医師その他の医療従事者の育成が促進され、がん診療の均てん化をより一層推進する。

#### ⑤災害時実践力強化事業

岩手県から事業委託を受けた本事業は、自然災害、大規模事故等の発生により要救助者・避難者が大量に発生した場合、医療従事者、救助関係者、行政職員の密な連携及び災害医療に係る強い実践力が必要となるため、これらの災害医療・救急救助に携わる人材育成を目的としている。本学の災害医学講座が実施主体となり、災害医療コーディネーター研修、救助関係者向け医療研修、災害保健医療従事者研修、岩手県 DMAT 隊員養成研修、広域災害救急医療情報システム（EMIS）操作に係る研修を実施する。

#### ⑥岩手県こころのケアセンター運営事業

岩手県こころのケアセンターが発足し5年目を迎え、活動は中長期を見据えた体制へ移行していく。初期体制から現在までに構築した関係機関等との連携体制を活かし、被災者への個別相談支援（沿岸7拠点における相談室活動、その他訪問活動等）や被災住民を対象とした普及啓蒙活動、保健師等を対象とした人材育成活動をより効果的に展開していく。

#### ⑦いわてこどもケアセンター運営事業

平成25年度に岩手県から事業委託を受けた本事業では、東日本大震災津波に被災した子供に対するこころのケアを中長期的、安定的に行うため、沿岸サテライト拠点と連携した専門的・継続的なケア等に取り組む。

#### ⑧岩手県ドクターヘリ運航事業

岩手県を事業主とする岩手県ドクターヘリの運航は、平成24年5月から本学が運用を委託され実施してきた。運航開始以来、医療機関や消防機関との連携のもと、安全かつ着実に運航が行われてきた。今後も、医療機関への搬送時間短縮を図るだけでなく、いち早く患者の初期治療を行い、救命率の向上及び後遺症の軽減を図ることを目的とし救急医療の充実に取り組む。

#### ⑨東北メディカル・メガバンク事業

いわて東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災で未曾有の被害を受けた被災地域を中心に、これまで協力を得た約3万人の健康状態等の追跡調査を行いバイオバンクを拡充するとともに、地域住民の健康向上のため、健康講演や健康相談等に取り組む。

また、平成29年度実施の2次調査に向けた準備を行うとともに、全国の

研究機関と連携しゲノムとエピゲノム情報等を解析し、予防医療・個別化医療等の次世代医療の実現を目指す。

#### (4) 医療関係

##### ①積極的な増収策の実施

###### i 紹介患者の獲得

- ◆ クリニックへの広報及び営業活動を行う（継続）。
- ◆ 外来診療の予約管理システムを導入する。インターネットで簡単に外来予約ができるサービスをクリニックに提供することで、新たな患者獲得につなげる。

###### ii 救急患者の獲得

- ◆ 救急患者を積極的に受け入れる体制を整備する（継続）。
- ◆ 医療安全の確保を図るとともに、一時的に 2 次救急患者を収容する体制を整備する。

###### iii DPC 対策の推進

- ◆ 後発医薬品使用割合 80%を達成し、DPC 係数の向上と医薬品費の削減を図る（継続）。
- ◆ 診療情報管理士による DPC コーディングの精度とデータの質を向上し、DPC 係数を確保する（継続）。
- ◆ 診療実績等の病院情報をホームページ等に公開し、DPC 係数を確保する。

##### ②医療経費の節減

###### i 経費節減活動の推進（継続）

- ◆ LCO（ローコストオペレーション）の継続と、保守料の見直し、輸液関連材料の切り替え検討及び手術室への SPD 導入等を推進する。

###### ii 医薬品費の削減

- ◆ 院外処方箋発行率の向上と後発医薬品への切り替え等、医薬品費の削減を行う。

###### iii 医療材料費の削減

- ◆ 医療材料の統一化とベンチマークを用いた価格交渉による価格削減を行う。

##### ③附属病院移転に向けた運営体制等の整備

###### i 診療記録管理体制の強化（継続）

- ◆ クリニカルパスの作成推進と平均在院日数の適正化のための見直しを行う。
- ◆ 退院時要約の提出率向上を図る。

- ii 手術室の効率的運用の推進
  - ◆ 手術枠の効率的利用を推進する。
  - ◆ 対象疾患の拡大により、確実に予定手術を実施する体制を整備する。
- iii 医療情報の利活用の推進
  - ◆ 病院経営支援システムを導入し、医療情報分析による課題の把握と企画立案を行う。
  - ◆ DPC 情報、財務情報、マーケット情報等、各種院内情報と他病院のベンチマークを用いた経営改善ポイントの把握と立案を行う。
- iv 診療体制のスピードアップ策の検討及び実施
  - ◆ 入退院センターを稼働し、患者にワンストップサービスを提供する。また、入退院手続きの一元化により、病棟運用の効率化を図る。
  - ◆ 採血患者の受付待ちを緩和するため、受付窓口の増設とそれに伴う電子カルテシステムの改修を行う。また、採血ブース増設等の抜本的な対策を検討し、混雑の解消を図る。
  - ◆ 生理検査、内視鏡検査等に係る予約の一元管理を検討する。
  - ◆ 質量分析装置等の整備を行い、菌種同定期間の短縮（1～2日から15分へ短縮）を図る。また、抗菌使用の適正化に寄与し、経費の節減を図る。
- V 病室リモデルの実施（継続）
  - ◆ 病室のリニューアルにより、選定療養の対象ベッドを増やし、患者満足度の向上と収入増を図る。

#### ④病院システムのリプレース

平成 22 年度に導入した電子カルテシステムは、平成 31 年度の矢巾新病院移転時に稼働後 10 年を迎え、ハードウェアの老朽化に伴う機器故障により診療に影響がでることから、システムをリプレースする必要がある。

電子カルテのリプレースは、職種毎の院内運用フロー検討、画面レイアウト検討等、院内各部署で様々な検討を行う必要があり、移転準備（機材購入、動線検討、人員配置検討、引越し等）と時期が重なることで職員の業務負荷が集中し、十分な準備ができないまま移転を迎えるリスクがあることから、移転前のシステムリプレースを計画し、職員の移転準備工数を確保することで、円滑な病院移転を目指す。

#### ⑤附属病院と PET・リニアックセンターの統合

日赤跡地の取得による敷地の一体化が図られたことに伴い、附属病院と PET・リニアックセンターの統合を行う。

## (5) 管理運営関係

### ①高濃度 PCB を含む蛍光灯安定器廃棄処分計画

本学が保管している高濃度 PCB を含む蛍光灯安定器の廃棄処分について、法律に基づき平成 28 年度から 3 年間にわたり廃棄処分を行う。廃棄処理は、他の一般企業廃棄物処理施設において行うことはできないため、国が 100 % 出資する北海道室蘭市の処理工場において計画的に実施される。

## (6) 施設設備関係

### ①中・西病棟系統吸収式冷凍機更新工事

中病棟及び西病棟の外来、並びに特別病室用の主要冷房熱源として東病棟地下に整備した冷凍機は、設置後 20 年（平成 8 年設置）が経過しており、経年劣化による故障停止が度々発生し、今後も同様の故障が発生することが否めない状況にある。

連続猛暑日や冷房負荷の自然増等による冷房能力不足のため、長時間フル運転が続いている状況を改善し、冷房設備の安定稼働を図るとともに、病院移転後の冷房熱源確保のため、前倒しで整備する。

### ②外来トイレの改修工事

附属病院外来や歯科医療センター等に設置しているトイレの洋式化を進め、アメニティの改善を図る。

### ③矢巾キャンパス西講義実習棟 2 階講義室整備工事

薬学部が使用している講義室を看護学部（平成 29 年度開設予定）の講義室に変更することから、代替りの講義室を西講義実習棟 2 階に整備する。

### ④矢巾キャンパス図書館分館の図書落下防止対策

災害時において学生の生命を守るという図書館のリスクマネジメントの観点から、図書落下のリスクを軽減するため、平成 26 年度からの継続事業である書架床固定と上部 3 段棚板 1,554 段を傾斜スライド棚に交換を行う。工事計画は 3 期 10 年の予定で、平成 28 年度は 152 段の交換を行う。

### ⑤矢巾キャンパス学生駐車場設備整備事業

矢巾キャンパス学生駐車場には照明設備が無く、夜間の通行が非常に危険であるため照明設備を新設する。



---

岩手医科大学は 2017 年に創立 120 周年を迎えます。

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸 19-1

• TEL : 019-651-5111 (代表)

• URL : [www.iwate-med.ac.jp](http://www.iwate-med.ac.jp)

• 発行 : 平成 28 年 3 月 28 日 岩手医科大学企画調整課



誠のあゆみ、未来へつなぐ